

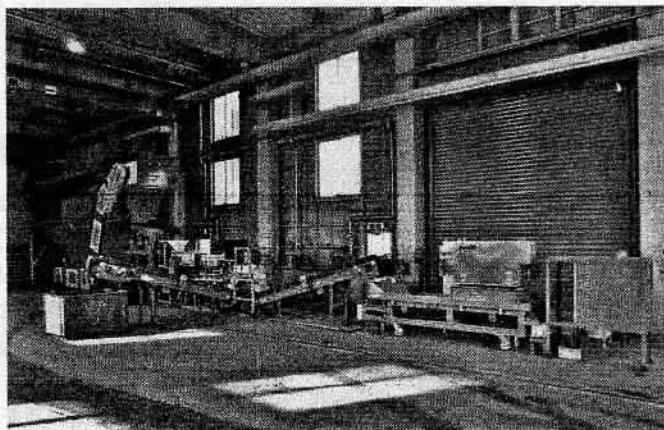
信越版

新潟支局

〒950-0087
新潟市中央区東大通
2-2-12
電話・025(246)3834
FAX・025(246)3967

富山支局

〒930-0072
富山市桃井町2-4-21
電話・076(421)1782
FAX・076(421)1785



LIBSソーターの実証機

アルミ合金は、用途によりマグネシウムやケイ素など添加される元素が異なる。スクラップ段階ではこれらが混在しており、再資源化には溶解して成分調整が必要なため大量のエネルギーを消費し、コストもかかる。そのためこれまでは展伸材から展伸材への水平リサイクルが難しく、多

同社は2年前から経 稲田大学や産業技術総合研究所、中部大、日 本アルミニウム協会な 費補助金」を受け、早 ども共同で「LIBS」

総合リサイクル業のハリタ金属(本社・高岡市福岡町本領、社長・張田真氏)は、アルミ合金廃棄物などを元素から成分分析し、リサイクルの高度化につなげる「LIBSソーター(選別機)」を開発した。同社によると世界初の試みで、次世代の金属回収プロセスとして特許を出願中。新年度から2年以内の実用化を目指している。

ハリタ金属

アルミ合金
廃棄物

高度リサイクル実現

世界初の選別機 消費エネ・コスト低減

くが 鋳造材へとカスケードリサイクルされてきた。開発した選別機は破砕した廃棄物をコンベヤーに載せ、レーザー

国内全体の溶解工程の1割をLIBSソーターに置き換えた場合、将来的にCO₂排出量は年間3万8千トン、製造コストはトン当た

り約2万円の削減効果が期待できるといっ。コンベヤー上を動く対象に的確にレーザーを当て、技術的問題を克服し、このほど同社の射水リサイクルセンター(射水市新堀)で実証機を完成させた。現在は主にアルミ合金に対応するが、鉄や銅など他の資源への応用も検討している。

2月24日にドイツで開催された国際会議「つくりにつなげたい」と今後の目標を語った。

を連続的に照射して合金の成分を元素レベルで素早く識別・選別。これで溶解工程を省略でき、合金種類別にリサイクル材を素材メーカーへ供給する水平リサイクルが可能になる。

(SBS2016)では同事業の研究成果が発表された。張田社長は「機器開発にとどまらず、高度資源再生を通じた新たな社会概念